

(令和3年 7月 19日)

< ワンポイントレッスン (実践) >

(最近のM・I (マーケット・インディケーター (2)))

・このコーナー、「最近のM・I (マーケット・インディケーター)」は、今年の3月22日に次いで2回目、今回は高値圏・要注意シグナルが多いでした。

今回は、収束度指数と順位相関底値圏銘柄比率。

・順位相関底値圏銘柄比率は、基本日柄整理の底値圏指標ですが、最近は、あまり経験のない動き。20%越え、30%越えが行き過ぎ。そして行き過ぎがあるとあまり時間を要せずに5%以下に低下するのですが今年に入って10%以上の水準が続いています。これは株価が長期間低迷している銘柄が多いことを示しています。

・もう一つは、収束度指数。日経平均は29,000円を中心に、上下1,000円幅の動きが続いているのでグラフをみれば判りますが(下記はTOPIXです)それを数値化したもの。上下どちらかに保ち合い離れとなる可能性が高くなっていることを示唆しています。

(順位相関底値圏銘柄比率、東証第一部)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

レンジを大きく離れる局面到来として、順張りか逆張りか…、個々人の性格が反映されるそうです。

(了)